

陸上自衛隊第12音楽隊 音楽まつり in 日光 ～市民と音楽隊との演奏による素敵なふれあい～



指揮者体験風景



音楽隊演奏風景

自衛隊栃木地方協力本部宇都宮募集案内所（所長 古川3陸佐）は、7月28日（日）第12音楽隊の支援を受けて、日光市今市文化会館・（一財）日光市公共施設復興公社が主催する「陸上自衛隊第12音楽隊 音楽まつり in 日光」において、支援及び広報展を実施した。

日光市での自衛隊音楽隊の演奏会は初の開催であり、小・中学校及び高等学校の吹奏楽部の生徒を優先的に招待するほか、一般公募で当選した人々を合わせて約500名が会場に訪れ、普段馴染のない自衛隊を、親和性の高い音楽演奏により「きっかけ」として認知する良い機会となった。

音楽まつりは、パリ・オリンピックが7月説明会では試験の概要24日から始まった事にちなみ、1964年東京オリンピックで選手入場曲となった「オリンピックマーチ」から幕を開け、2024年度の吹奏楽コンクールの課題曲目である「メルヘン」を演奏し、美しい音色により聴衆の創造をかき立て、童謡の世界に誘った。また、サブライズとして「軍艦行進曲」の指揮者体験者を募り、4名の方が名乗りを上げ、それぞれ音楽隊長顔負けのタクトさばきを行い、拍手喝采を受けていた。終演後は、音楽隊の隊員と一緒に記念写真を撮ったり、「自衛隊さん、素晴らしい演奏ありがとう」、「迫力のある演奏で、楽しさが心に残りました」と音楽隊の演奏に深く感銘を受けていた感銘を受けていた様子であった。

宇都宮募集案内所は、「今後も、各関係協力団体と協力しながら、あらゆる機会を積極的に活用し、自衛隊の活動について理解を深めてもらうとともに、地域と一体となった採用広報活動を所員一丸となり推進していく」としている。

であいとふれあいにわっしょい！ 栃木県最大のお祭り！ふるさと宮まつりを支援



暑さに汗が噴き出す



みんなであっしょい！



上手に釣れました♪



募集説明の様子

宇都宮市内の大通りで開催された「第49回ふるさと宮まつり」を支援した。自衛隊栃木地方協力本部（本部長 加藤 浩一陸佐）は、8月4日（日）、同まつりは例年8月の第1土日に開催され、みこしの参加数は約90基と北関東最大級で、来場者数も60万人以上となる栃木県最大のお祭りである。

正午にスタートした「宮っこみこし」では、みこしの担ぎ手として14名が参加。降りそそぐ太陽の下、えんじ色の半纏に身を包み、大量の汗を流しながら市内を練り歩く隊員たちの姿が見られた。みこしが商店街に到着すると、アーケードを歩く観客たちが一緒に盛り返り、凄まじい熱気が溢れていた。半纏の色が変わるほど汗だくになった隊員たちは、誰もが皆さわやかな笑顔を浮かべており、自衛隊の精強さをアピールすることができた。

また、日中催事の行われているオリオンスクエアの一角では、広報展を実施した。募集説明ブースのほか、まつりらしさを意識した射的や缶バッチ釣りなどを用意し、来場者に対して声掛けを行った。広報展には、高等工科学校の二渡生徒が急遽応援に駆けつけてくれ、パンフレットやポケットティッシュの配布などを行いながら来場者と笑顔で話すなど、積極的に協力してくれた。ブースの前には、舞台上で行われる催事や和楽器などの演奏を聴きながら、色とりどりの浴衣を着た来場者たちが列をなし、賑わいをみせていた。

まつりの後半には、交通規制時間帯に合わせ、警備の支援に17名が参加した。迷彩服や部隊帽、その日の「自衛隊」オリジナル缶バッチを身に付けて、ロープ警備の配置にいた隊員たちに、「自衛隊さんですか？いろいろな活動をしているんですね」、「お疲れ様です。暑いですが頑張ってください」などと声をかける来場者もみられ、まつりを通して多くの人に自衛隊の存在をより身近に感じてもらうことができた。

栃木地本は、「このまつりをきっかけとして、今後も、各種イベント等を通じ地域住民との出会いとふれあいを大切にしながら、多くの方々に自衛隊の存在をより身近に感じてほしい、自衛隊に対する関心や理解の促進を図り、募集基盤の拡充につなげていきたい」としている。



いざ、警備地点へ！



ロープ警備の様子